

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 12 月 12 日作成)

小委員会名	クールルーフ適正普及促進小委員会	主 査 名：竹林 英樹 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：三坂 育正
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒートアイランド適応策の研究事例収集，普及に向けた議論，評価方法の検討 ・ 海外の事例収集，情報交換 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：竹林英樹 (神戸大学) 幹事：三坂育正 (日本工業大学)，橋田祥子 (明星大学) 委員：赤川宏幸 (大林組)，井原智彦 (東京大学)，梅田和彦 (大成建設)，小島倫直 (竹中工務店)，近藤靖史 (東京都市大学)，酒井孝司 (明治大学)，田坂太一 (建材試験センター)，西岡真稔 (大阪市立大学)，長谷川麻子 (熊本大学)，村田泰孝 (崇城大学)，森山正和 (摂南大学)，吉田篤正 (大阪府立大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2017 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fi00-12/fi50-15.html

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. ヒートアイランド適応策の研究事例，評価方法について議論した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 「クールルーフガイドブック」の更なる普及が今後の課題である。 2. 次年度に活動成果の公表として公開勉強会を開催する。

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>クールルーフに関する話題提供として、村田委員より太陽光パネルの熱収支の検討結果について報告頂き、議論を行った。井原委員より広域スケールで検討された熱中症のリスク評価結果について報告頂き、議論を行った。橋田委員よりクールルーフプランツについて紹介され、議論を行った。</p> <p>関連する団体の活動状況として、近藤委員よりヒートアイランド対策協議会の認証制度の検討状況について紹介頂いた。CASBEE-HIの改訂状況と併せて情報交換を行った。</p> <p>海外の活動状況として、竹林主査よりカールスルーエの適応計画、イタリアで開催された国際会議における温熱環境申告まち歩きツアーの様子が紹介された。</p> <p>ヒートアイランド適応策の研究事例、評価方法の検討として、竹林主査より評価の枠組み案が提示され、議論が行われた。三坂委員より評価の事例が紹介され、議論が行われた。</p> <p>次年度に開催予定の公開勉強会について、竹林主査よりプログラム案が提示され、内容が検討された。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。